

令和 4 年度事業報告書

(令和 5 年 6 月 1 日 理事会承認)

(令和 5 年 6 月 19 日 評議員会承認)

*** 社会福祉法人 ***

・豊徳会 1p

*** 施設サービス事業 ***

・青景園 9p

・秋芳の里 27p

*** 居宅サービス事業 ****

・美祢東地域包括支援センター 40p

・在宅介護支援センター青景園 42p

・青景園デイサービスセンター 44p

・秋吉デイサービスセンター 49p

・青景園短期入所生活介護 55p

・秋芳の里短期入所生活介護 58p

社 会 福 祉 法 人 豊 徳 会

社会福祉法人 豊徳会

令和4年度 事業報告

はじめに

令和4年度は、令和2、3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年であった。集団感染(クラスター)が令和5年1月と年度を越えた4月に発生し、陽性となった入居者や濃厚接触の入居者には施設内で療養して頂いたが、本来は、居住場所である施設での汚染エリア・清潔エリアの区分割りは限界を超えていた部分もあった。その中でも、職員は、多くの職員が陽性になり勤務できなくなったりして、マンパワーが不足したにも拘わらず、協力し合いながら、入居者の介護にあたってもらった。そのお蔭で、最小限の拡大 且つ 短期間でクラスターを終息させることができた。

また、この間、ショートステイやデイサービスの受入停止を止むを得ず実施した為、地域の利用者にご迷惑をお掛けした。

特に特養入居者の皆さんには、令和2年2月の新型コロナ発生以来、外部との接触を出来るだけ断つために、ご家族との面会や外出、ボランティアの受入等多大な犠牲を強いてしまった。令和5年度を迎え、新型コロナウイルス感染症の扱いも変わりパンデミックも終わりを迎えることを機に、出来るだけ早期に普通の普段の生活に戻る努力を継続していきたい。

一方、地域の高齢化、少子化、過疎化や、介護人材の不足等 経営環境も大きく変化し、環境の変化に合わせた事業運営を模索していかなければならない時代になって来ている。このことを受け、令和4年度に、「将来に向けた構想」検討会を新規に立ち上げ、様々な課題とその対策を検討した。この検討内容を吟味し、さらに令和5年度以降、課題解決に一層努力していく必要がある。

《総務部門》

1. 収支悪化の改善

- ・ 青景園利用者の延べ人数が大きく減少しており、介護報酬が減収となった。人件費削減のために、入所者数に合わせた人員配置を行う必要があり、そのための業務の効率化、省力化に取り組んでいく必要がある。
- ・ 物価の高騰により運用経費は増大しており、特に電気代の値上がりが顕著である。節電の努力や自治体等の補助金活用で対処しているが、値上がりの影響はそれ以上であり、対策に苦慮している。

2. ICT の活用

- ・ 介護職員の業務負担軽減・記録業務の負担軽減、部署間の情報の共有、総務業務の効率化・コスト削減のために ICT の導入に取り組んでいる。
- ・ 特に総務業務については、業務の均一化を目指し、業務内容の見直し、簡素化を行っている。
- ・ 会計業務や請求業務について、ソフトウェアの機能を理解して最大限利用し、省力化を実現した。

… 資料 …

《会議について》

◎ 理事会

第 1 回理事会 (日時:令和 4 年 6 月 2 日、場所:別府公民館)

- 議題:
- ・ 令和 3 年度事業報告
 - ・ 令和 3 年度会計報告
 - ・ 社会福祉充実計画
 - ・ 経理規程及び給与規則の改定
 - ・ 令和 4 年度第 1 回評議員会招集

第 2 回理事会 (日時:令和 4 年 12 月 9 日、場所:別府公民館)

- 議題:
- ・ 令和 4 年度上期事業報告
 - ・ 令和 4 年度上期会計報告

第 3 回理事会 (日時:令和 5 年 3 月 23 日、場所:別府公民館)

- 議題:
- ・ 令和 4 年度補正予算
 - ・ 令和 5 年度事業計画
 - ・ 令和 5 年度予算

◎ 評議員会

第 1 回評議員会 (日時:令和 4 年 6 月 23 日、場所:別府公民館)

- 議題:
- ・ 令和 3 年度事業報告
 - ・ 令和 3 年度決算報告
 - ・ 社会福祉充実計画

第2回評議員会 (日時:令和4年12月9日、場所:別府公民館)
議題: ・令和4年度上期事業報告
・令和4年度上期決算報告

◎ 運営協議会

第1回運営協議会 (日時:令和4年7月14日、場所:嘉万公民館)
議題: ・令和3年度事業報告
・事業運営に対するご意見やご要望

第2回評議員会 (日時:令和4年12月14日、場所:嘉万公民館)
議題: ・令和4年度上期事業報告
・事業運営に対するご意見やご要望

◎ 令和4年度福祉サービス苦情解決規定に基づく第三者委員の会議

(日時:令和4年10月31日、場所:青景園)
議題: ・苦情発生状況について
・入居者の生活状況等の報告について

※ 社会福祉法人豊徳会 福祉サービス苦情解決規定

第1条(目的) 社会福祉法第82条等に基づき、社会福祉法人豊徳会が苦情解決に関する必要な事項を定め、各事業所のサービスに関する利用者(以下「利用者」という。)等から苦情の適切な解決に資するとともに、福祉サービスの質の向上を図る目的とする。

◎ 「将来に向けた構想」検討会 (新規)

第1回検討会 (日時:令和4年10月6日、場所:秋芳の里)
第2回検討会 (日時:令和4年11月10日、場所:秋芳の里)
第3回検討会 (日時:令和4年12月9日、場所:秋芳の里)
第4回検討会 (日時:令和5年3月23日、場所:別府公民館)

※ 「将来に向けた構想」検討会

青景園が直面する諸問題に対する根本的解決を図るために、役員一同(評議員・理事・監事)が、一堂に、課題を整理し、解決策を検討する会議。令和4年度に新たに発足した。

《美祢市受託事業》

◎ 配食サービス事業

配達地域： 秋芳町 全域
配達日： 月、水、金曜日
利用者数： 37名 (R3:40人 R2:35人、R1:28人)
年間配食数： 3199食 (R3:2996食 R2:2554食 R1:2349食)

◎ 美祢市家族介護教室開催事業

3カ所を予定していたが、すべて中止となった

《防災・防犯関係》

青景園

・非常通報訓練(夜間想定)	令和4年6月21日
・避難訓練(土砂災害想定)	令和4年7月3日
・消防設備等定期点検	令和4年5月20日
・消防設備等定期点検	令和4年11月18日

秋芳の里

・夜間想定非常通報訓練	令和4年5月30日
・水害想定避難訓練・消火訓練	令和4年6月28日
・夜間火災想定避難訓練・消火訓練	令和4年8月24日
・消防設備等定期点検	令和4年5月20日
・消防設備等定期点検	令和4年11月18日

《職員について》

① 職員の状況（各年4月給与の支給対象者より算出）

年度	人数 (人)			年齢 (歳)			社歴 (年)		
	R02	R03	R04	R02	R03	R04	R02	R03	R04
正社員	73	74	75	50.5	50.3	51.0	14.1	14.7	15.0
パート	74	76	74	63.2	66.6	64.3	11.3	17.7	12.7
嘱託職員	8	9	9	65.5	69.3	70.3	6.9	8.2	9.1
計	155	159	158	57.3	59.2	58.3	12.4	15.8	13.6

② 退職者 及び 入職者

・入職者

正社員	2人
パート	5人
合計	7人

・退職者

正社員	0人
パート	8人
合計	8人

・身分異動

パート → 正社員	2人
正社員 → パート	3人

③ 令和5年4月の新卒入職者 1名（高校卒）

《資格取得》

介護福祉士資格試験	受験者	1名
	合格者	1名

《職員研修》

i 園内研修

- ・職員全体研修会 全ての全体研修を 回覧研修として実施
- ・個別技術研修認定 日常生活動作のケアスキル (4)入浴 2名
(5)整容 2名

ii 園外研修

- ◎ 延べ派遣数 41名
(R1年度 128名、R2年度 16名、R2年度 22名)

・うち 海外研修 なし (R1年度 2名、R2、3年度 0名)

・うち 県外派遣数 なし (R1年度 12名、R2、3年度 0名)

- ◎ オンライン研修 41名 (R3年度 61名)

《あおかげ勉強会 2022》

【人生の終わりの時期の支援をすることの意義を考える】

テーマ: ~なぜコロナワクチンをめぐって「老人」が優先されるのか~
—— 真の多様性の配慮へ向けての考察 ——

講師: 廣田 智子
山口県立大学社会福祉学部准教授、文学博士
研究分野 - 哲学・倫理学

日時: 第一回 5月予定 → コロナの為中止
~ なぜコロナワクチン接種は「老人」が優先か ~
第二回 6月予定 → コロナの為中止
~ 高齢者の尊重と生産性優先との矛盾 ~
第三回 7月予定 → コロナの為中止
~ この流れを肯定的積極的に活かすために ~

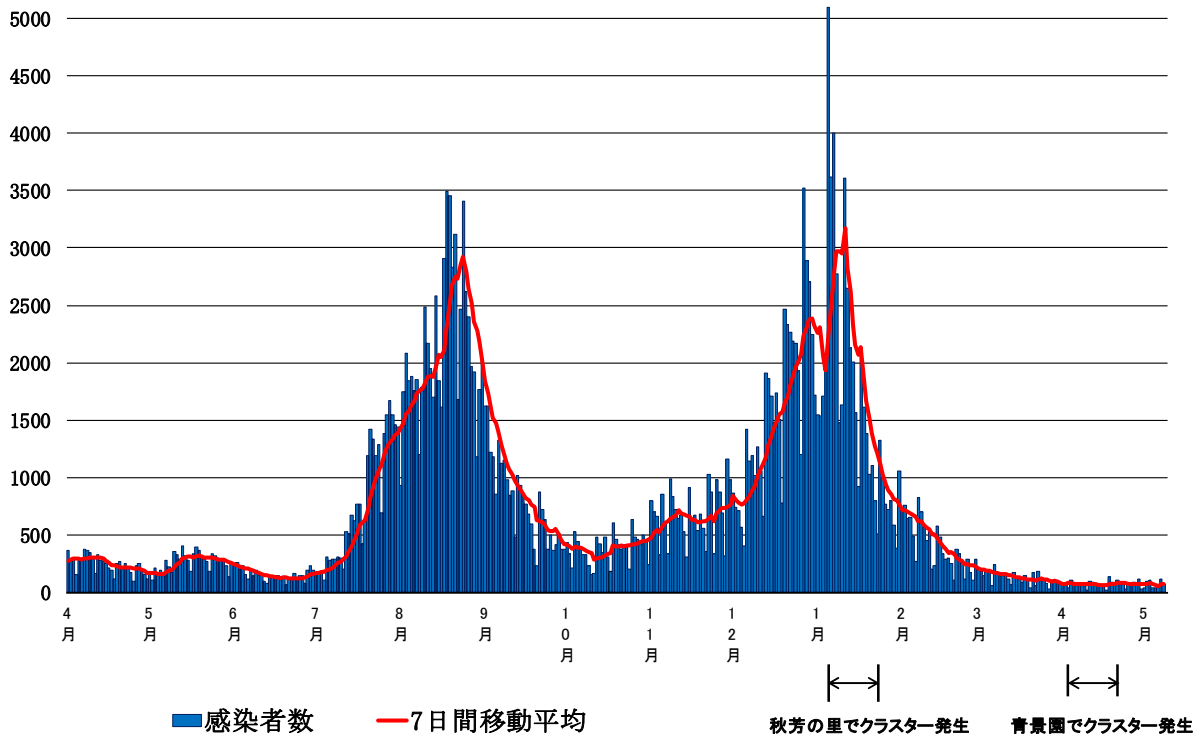
【新型コロナウイルス感染症関連】

1 体制

新型コロナウイルス感染防止緊急対策チームを指定感染症に指定されたことを受け、令和2年3月25日に発足させ、法人全体の感染対策を管理したが、令和4年11月末、国の方針も、ウイズコロナに変更された事を受けて、同チームを解散し、通常の感染症防止対策の一環として、既存の「青景園及び秋芳の里感染症予防対策委員会」に移管して、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を実施した。

2 感染対策状況

山口県内の感染者の推移 (R4/4月～)



◎クラスター発生状況

◇秋芳の里

・発生日 令和5年1月4日～終息日 1月26日

・陽性者数

入居者	9人
うち	入院 0人
	重症 3人
職員	13人
	(全員 軽症)

◇青景園

・発生日 令和5年4月2日～終息日 4月20日

・陽性者数

入居者		34人
〔うち	入院	3人
	重症	5人
職員		14人

(全員 軽症)

・山口県感染対策防止チームによる実地指導

特別養護老人ホーム青景園

令和4年度 事業報告

入居者の方は、加齢に伴い心身の健康状態に変化が訪れてくる。こうした中、自己の存在や自己の思いが尊重出来るよう寄り添いながら支援を行った。

また職員においては、働きやすい職場作りのひとつとして、互いを理解し合うために職員間のコミュニケーションを深めていく為に、これまで以上に“話し合う”機会を意図的に設けていった。

入居者については、退居(長期入院や死亡)される方が相次ぎ円滑な入居に繋がっていない現状が課題となっている。

・・・ 重点項目 ……

1. 看とり

- ・ 園で最期を迎えられた方は 11 名であった。いずれの方も入退院を繰り返されており、その度に体力が衰えていくのは顕著であった。その中でも唯一の楽しみであろう食事は“なんでも好きなものを一口でも”と職員は誰もがその思いで関わった。ビールで乾杯という光景も見られた。入居者の方のほころんだ笑顔を一瞬でも見ることで、私たちの喜びにも繋がった。
- ・ 園で最期を迎えられた方の振り返りを行い、その際、助言者として廣田先生(山口県立大)に出席して頂いた。看取り期は特別な介護とも言えるだろうが、日常介護の延長上にある。日々入居者の方と真摯に向かい合い、更には私達が知っている現在の入居者の方の姿だけで判断するのではなく、その方がこれまで歩んでこられた人生をも含んで理解すること。そうすることでその方をもっと深く知り受け入れられることを学んだ。

2. 認知症ケア

- ・ 認知症について学びたいと言う職員の要望に充分対応できなかった面もある。基本的な学びから更に専門的な学びへ計画した研修の取り組みを今後の課題とする。
- ・ 認知症介護基礎研修はオンライン研修にて 14 名の者が終了した。この研修は次年度まで継続して行う。

3. 職員の資質向上

- ・ 園内では回覧研修や実践が必要な内容は時間を工夫して小刻みに行った。一人でも多くの職員に学ぶ場面を設けて行くよう努めていく。
- ・ 外部への研修は消極的な面もあった。今後は、広い視野で学ぶ為にも積極的に行っ

て行きたい。

4. 安全衛生

- ・ 福祉用具の使用については誰もが熟知し使用が円滑に行われている物と機能が十分発揮出来ていない物とがある。安全で効率的な介護を行う為にも、更に指導の場を計画していくことにする。
- ・ 職員間でのコミュニケーションを充実するため“話し合う”場を設けるよう努めた。時間にも制約のある日常だが話す事の大切さをこれからも意識していく。

5. 感染症予防対策(新型コロナウイルス感染症)

- ・ 園内の在宅サービス(ショートステイ)部門でコロナが発症(1月末～2月上旬)した。この為入居者の方には日常生活で制限のある日々を送ってもらった。この事を体験し感染対策への取り組みに課題が見え、今後の参考になった。

<介護報酬に関する資料>

- ・ 下記の事由により、介護報酬の減少が大きかった。
 - ・ 入居申込者は減少をしており、その中でも入院中で医療が継続されている方の申し込みも少なくない。
 - ・ 重篤な方の死亡や長期入院による退所が相次ぎ、入居者の人数がなかなか回復出来ず慢性的な欠員となっている。
 - ・ 入院者数の増加や入院の長期化が目立つ。
- ・ 今後入院期間の調整や入居に向けて欠員期間の短縮を目指すことを施設全体の課題として取り組む。

表1. 利用者の状況

① 利用者数

	R2 年度	R3 年度	R4 年度
延べ利用者数 [人]	26,447	26,981	24,945
利用率 [%]	90.63%	92.40%	85.43%
一日平均利用者数 [人]	72.5	73.9	68.3

② 入院者数

		R2 年度	R3 年度	R4 年度
延べ入院者数	[人]	2,123	1,422	1,796
利用率	[%]	7.25%	4.87%	6.20%
日平均入院者数	[人]	5.8	3.9	4.9

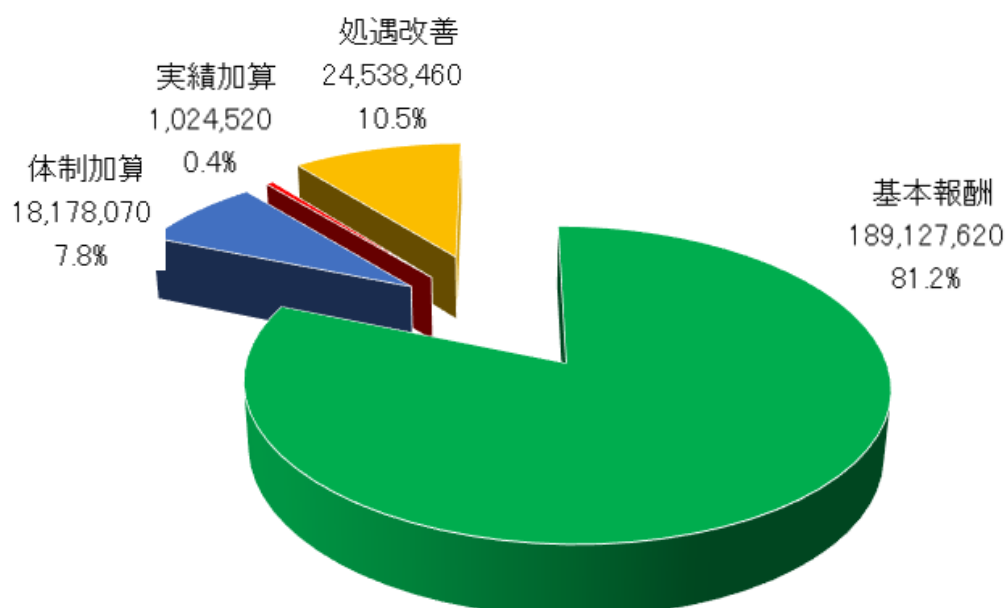
③ 欠員者数

		R2 年度	R3 年度	R4 年度
延べ欠員者数	[人]	630	797	2,459
利用率	[%]	2.13%	2.73%	8.40%
日平均欠員者数	[人]	1.7	2.2	6.7

表2. 介護報酬(月次レセプト請求額の集計)の状況

		R2 年度	R3 年度	R4 年度
人数		26,358	26,975	24,911
介護報酬	基本報酬の部分	197,124,730	204,753,000	189,127,620
	体制加算の部分	22,926,520	19,691,750	18,178,070
	実績加算の部分	1,400,160	1,321,980	1,024,520
	処遇改善加算の部分	24,358,080	24,846,750	24,538,460
	合計	245,809,490	250,718,390	232,868,670

グラフ 介護報酬(月次レセプト請求額の集計値)の構成比率 (R4 年度)



《 生活相談部門 》

入居者・家族に寄り添い、「ここで生活したい」「ここで生活できてよかった」と、利用者、家族が安心して、満足のできる暮らしとなるように、多職種と連携して関わるようにした。

コロナ禍で会えないことが多いからこそ、家族と密に連絡をとりあい、人生の最期、寿命を全うすることができるように関わった。

・・・ 重点項目 ……

1. 入居者・家族との関わりについて

- ・ コロナ禍で会えないぶん、写真や電話などで家族に様子を知らせているが、面会制限が長く続いており、本人も家族もストレスとなっている。そのため、家族は様子がわからず、不安や心配な為、必要時には受診に同行していただき、医師より様子を聞いてもらった。
- ・ その人らしく、家族と共に最期を迎えることができるように、入居者や家族の揺れる思いを聞き、寄り添う。コロナ禍ではあるが、本人・家族が安心して過ごすことができるように、会えるように工夫した。
- ・ 家に帰りたい時や会いたい時には、電話で声を聞き、会話ができるように関わり、また、面会のお願いもした。
- ・ 楽しみのひとつである食事を、美味しく、楽しく味わうことができるようにした。食欲のないときには、多職種と連携して、食べたいものや食べやすいものを提供したり、家族に好みの物を聞いたりした。
- ・ 急変時の報告だけでなく、生活の中で良い事、うれしいこと、できるようになった事なども家族に報告し、みんなで一緒に喜びあっている。コロナ禍で、入居者、職員ともに、ストレスをかかえていると思うが、時には大きな声で笑い合い、楽しい気分になれるようにした。

2. 職員間の連携

- ・ 食事介助や入浴介助、受診介助など、できる限り現場に入って実状を知り、多職種との連携を図りやすくするようにしている。

3. 入退所について

- ・ 入所申し込みが以前より少なく、また入所の意向がなかったり、施設として受け入れができない利用者もあり、円滑な入所につながっていない。
- ・ 在園者、新入所の利用者、共に、高齢で重度化のため、入院も増えている。そのためか、長期入院での退所が増えている。
- ・ コロナ禍であり、入所後は自宅に帰ることができない為、施設入所を断る方もいる。外

出や外泊が自由にできれば本入所を決断する家族もいるように思う。

- ・ 退所が続き、入所も続くので、情報を詳しく収集し、利用者、家族が安心して生活をはじめられるように、また職員が安心して受け入れやすいように努めた。

<資料1. 入所者の状況 (R5.3.31 現在) 定員 80 名>

① 年齢別

年齢	男	女	計
60 歳以下	0	0	0
60～69 歳	2	1	3
70～74 歳	0	3	3
75～79 歳	1	4	5
80～89 歳	4	15	19
90～99 歳	3	35	38
100 歳以上	0	1	1
合計	10	59	69

平均年齢・・・ 88.2 歳

男性・・・ 82.3 歳

女性・・・ 89.2 歳

※昨年度平均年齢
・・・ 88.4 歳

75歳未満 6 名

75歳以上 63 名 [90 歳以上 39 名]
(最高齢者100歳 1 名)

② 介護度別

介護度	男	女	計
要介護 1	0	0	0
要介護 2	1	5	6
要介護 3	3	19	22
要介護 4	5	19	24
要介護 5	1	16	17
合計	10	59	69

平均要介護度・・・ 3.6

※昨年度平均要介護度
・・・ 3.8

③入・退所者数

i.入所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年
男	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4	5
女	2	1	2	3	0	0	0	3	0	2	1	0	14	13
計	2	1	2	3	0	1	0	5	1	2	1	0	18	18

- ◎入所理由
- ・退院により、在宅介護が困難のため・・・ 4名
 - ・在宅からの入所は、介護負担大きく、在宅生活困難のため・・・ 10名
 - ・他の施設より・・・ 4名

◎入所順位

- ・4月順位表
 - ・4月 :57人中7番
 - 〃 :52人中19番
 - ・5月 :57人中58番 入所判定会議後の申込み
 - ・6月 :57人中59番 入所判定会議後の申込み
 - 〃 :57人中29番
 - ・7月 :57人中60番 入所判定会議後の申込み
 - 〃 :57人中47番
 - 〃 :57人中32番
- ・8月順位表
 - ・9月 :52人中22番
 - ・11月 :52人中23番
 - 〃 :52人中53番 入所判定会議後の申込み
 - 〃 :52人中54番 入所判定会議後の申込み
 - 〃 :52人中2番
- ・11月順位表
 - 〃 :57人中2番
 - ・12月 :57人中28番
 - ・1月 :57人中58番 入所判定会議後の申込み
 - 〃 :57人中17番
 - 〃 :57人中40番

- ※ 入所検討委員会は、年3回(7月、11月、3月)に実施し、翌月から適用
- ※ 入所においては入所検討委員会を持ち、公正な立場で検討を行っている。
特に、本人の入所への意向を重視している。

<資料 2. 行事報告>

月日	行事	月日	行事
4. 5	お花見行事	10.13	秋の大運動会
8	花見ドライブ	11.18	紅葉ドライブ
5. 3	開園記念日	25	ボウリング大会
5	端午の節句	12. 7	大祓い
9	花祭り行事・母の日行事	23	クリスマス会
6. 2	蛍見物	28	餅つき
16	大祓い	1. 1	おとその会
20	父の日行事	6	三社詣り
7. 1	氷とかし	10	初笑い
7	七夕	2. 3	節分祭
8. 9	盆供養	15	寒さを吹きとばそう会
25	縁日・地蔵祭り	3. 3	ひな祭り
9.12	梨セレモニー		
15	敬老会		
21	十五夜		

※奇数月に “お経と法話”、“お茶会”を実施

※毎月誕生会

※毎月誕生会前日には生花クラブ

《 介護部門 》

入居者の多くは、様々な病気や障害を抱えて、年々重度化している。ニーズも多様化しており、より細やかな個別ケアが必要である。専門職として、技術の向上、知識の習得とともに、ケアの充実を図り、取り組みについても評価を行っている。コロナ禍においての入居者、また職員のストレスにも考慮し、意図的に関わるように努めた。

・・・ 重点項目 ……

1. 看取りケア

- ・ 職員一人一人が、人生の最期について考え、ケアを行っている。専門職として、ためらいなく、関わりを持ち、人生を全うできるように努めている。
- ・ 家族と信頼関係を築けるように意識して関わり、各自の思いを伝えあう機会をつくることで、グリーフケアにつなげ、改めて自分達のケアの意義を再確認するようにした。

2. 排泄ケアの充実

- ・ 個別に、排泄物品を工夫して活用し、徹底するようにしている。各ユニットの事例など、情報を共有し、モチベーションの向上につなげ、部会の活動を深めた。今後も部会を中心に、物品の検討は継続し、入居者の機能や向上につなげたい。

3. 認知症ケア

- ・ 入居者の多くが認知症を抱えている。全職員が認知症について学び、関わりを深めるようにしている。認知症委員会で、新人研修や回覧研修を行い、実践を続けている。

4. 腰痛予防

- ・ 職員アンケートを実施し、腰痛の現状を把握し、抱えない介護方法や物品の活用を実践している。
- ・ ハグ(移乗サポートロボット)の活用は、全職員に周知し、使用する利用者や活用する場面も増えており、今後も継続していく。

5. 職員の資質向上

- ・ わかくさシステムを活用し、目標を明確にし、モチベーションの維持につなげている。
- ・ コロナ禍において、話すことの大切さを再確認し、一緒に働く仲間同士、悩みや考えを相談し合うため、少人数で意図的に話す機会を作ることが課題である。
- ・ 新人職員に向けた、介護技術向上の研修を行い、評価しながら、周囲が温かく見守れるようにしている。
- ・ 自分達のケアを振り返り、意義を再確認できるように、勉強会を行うことが課題である。

《 看護部門 》

特養の看護は、病院のように治療を中心とした看護ではなく、入居者の生活を優先にした看護です。入居者は高齢で、様々な疾患を抱え、心身の障害を有しながらも生活を維持するために、健康管理や生活の延長としての最期の時を穏やかに過ごしていただくために最善の看取りを援助しています。

・・・ 重点項目 ……

1. 入居者の健康管理

- ・ 配置医不在が続き、入居者に変化があった時に相談できず、健康管理がスムーズに出来なかった。その為、近隣病院やクリニック等へ相談し対応できたが、スムーズに受診へ繋がらない時もあり対応が難しく感じることもあった。
- ・ 受診の件数も以前より多くなり、高齢の入居者へも負担があったと思われるが、検査等できたため体調の変化を知ることができた。

2. 看取り

- ・ 園で 11 名の方が最期まで過ごされた。コロナ禍の為、面会もなかなかできない状況ではあったが、ご家族にも感染症対応を行っていただき、できるだけ傍で関わっていただくことができた。
- ・ 配置医不在時の看取りについては、他の医師により、日頃からこまめな病状説明等を行い、スムーズに対応することができた。

3. 感染症予防対策(新型コロナ、インフルエンザ、食中毒等)

- ・ 新型コロナワクチン、インフルエンザワクチン接種について、入居者の希望の方は、竹尾医師により園内で実施することができた。接種の時期によっては、クリニックや病院で接種する方もあった。
- ・ 職員のインフルエンザワクチン接種については、希望者はかかりつけ医にて接種できた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症について、利用者の持ち込みはあったが、早期に感染症対応を行い、2 週間程度入居者の方には不自由な思いをさせてしまったが、全体的に拡大することは防げた。職員、家族内の新型コロナ感染症発生は数名あったが、園内での持ち込みはなかった。日々の職員一人一人の感染症への意識の高さがうかがえる。

4. 職員の健康管理

- ・ 毎日の健康チェックは継続しており、不調時には早めの連絡、適宜受診を行い対応している。

- ・ 定期健診も終了し、その結果により、再検査や再受診を勧めた。

5. 専門職としての役割

- ・ 今までと変わらず、他職員と連携、協働していく。
- ・ コロナ禍であったため、回覧研修が主だったが、今後も委員会や研修へも参加し自己研鑽に努める。

《令和4年度受診状況》

表1. 外来受診件数

外来受診件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年実績	前年差異	
定期受診	R01	42	51	40	62	48	35	39	40	39	42	42	59	539			788
	R02	55	38	55	54	44	52	53	45	51	56	43	64	610			
	R03	53	63	75	80	84	61	67	67	63	48	60	67	788			
	R04	77	70	69	58	64	64	71	72	56	27	49	62	739			
	内訳	美東病院	(43)	(40)	(36)	(33)	(37)	(30)	(38)	(36)	(26)	(20)	(30)	(37)	(406)	372	+34
		竹尾クリニック	(20)	(17)	(19)	(16)	(14)	(23)	(20)	(20)	(16)		(7)	(16)	(188)	210	-22
		田代台病院	(9)	(6)	(6)	(3)	(9)	(5)	(6)	(7)	(11)	(2)	(7)	(5)	(76)	116	-40
		美祿市立病院	(3)	(2)	(3)	(3)	(2)	(2)	(4)	(3)	(2)	(3)	(3)	(2)	(32)	53	-21
		長門総合病院		(1)	(1)	(1)		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(10)	13	-3
		山口済生会病院	(1)	(2)	(3)		(2)		(1)						(9)	3	+6
		時澤史郎先生			(1)			(1)		(1)					(3)	1	+2
		さかゝ内科クリニック				(1)		(1)						(1)	(3)	4	-1
		植田救急クリニック									(3)				(3)	9	-6
		ねごろ神経内科							(1)	(1)			(1)		(3)		+3
		岡田病院	(1)	(1)											(2)	1	+1
		札幌クリニック						(1)							(1)	1	+0
		伊佐歯科		(1)											(1)		+1
藤村内科クリニック											(1)			(1)		+1	
山口大学附属病院				(1)									(1)	1	+0		
山口労災病院														1	-1		
山口赤十字病院														1	-1		
臨時受診	R01	17	14	9	17	16	18	9	19	9	24	8	10	170	195	-31	
	R02	13	6	14	13	13	11	13	12	13	10	5	15	138			
	R03	18	20	14	13	13	32	22	14	11	12	7	19	195			
	R04	16	8	13	22	18	13	11	13	17	10	5	18	164			
	内訳	美東病院	(14)	(6)	(11)	(17)	(6)	(7)	(6)	(7)	(10)	(6)	(2)	(12)	(104)	118	-14
		美祿市立病院			(1)	(2)	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(1)	(4)	(17)	16	+1
		竹尾クリニック	(1)				(8)	(2)	(1)	(2)	(1)		(1)		(16)	31	-15
		山口済生会病院		(2)	(1)					(1)		(1)	(1)		(6)	4	+2
		長門総合病院				(1)		(2)			(2)				(5)	4	+1
		植田救急クリニック						(1)	(2)	(1)					(4)	8	-4
		田代台病院				(1)					(1)	(1)		(1)	(4)	2	+2
		さかゝ内科クリニック					(3)								(3)	4	-1
		時澤史郎先生									(1)				(1)		+1
		小郡第一病院												(1)	(1)		+1
札幌クリニック		(1)												(1)	4	-3	
山口大学附属病院								(1)						(1)		+1	
ねごろ神経内科					(1)									(1)		+1	
岡田病院															2	-2	
山口赤十字病院														1	-1		
合計	R01	59	65	49	79	64	53	48	59	48	66	50	69	709	983	-80	
	R02	68	44	69	67	57	63	66	57	64	66	48	79	748			
	R03	71	83	89	93	97	93	89	81	74	60	67	86	983			
	R04	93	78	82	80	82	77	82	85	73	37	54	80	903			

表2. 月別入院者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年実績	前年差異	
件数	R01	8	7	2	9	5	9	5	5	5	6	3	7	71			59
	R02	9	5	7	10	7	7	9	5	5	2	0	3	69			
	R03	5	4	2	3	4	9	9	5	6	4	5	3	59			
	R04	3	8	5	5	3	3	5	3	3	4	1	7	50			
	内訳	美東病院	(3)	(6)	(3)	(4)	(2)	(2)	(4)	(2)	(2)	(2)		(5)	(35)	50	-15
		山口済生会病院		(2)	(2)		(1)			(1)		(1)	(1)		(8)	3	+5
		美祢市立病院							(1)			(1)		(1)	(3)	2	+1
		長門総合病院				(1)		(1)			(1)				(3)	2	+1
小郡第一病院													(1)	(1)		+1	
田代台病院															1	-1	
山口赤十字病院															1	-1	

《 リハビリ部門 》

今年度は入居者本位であることを最優先にして、ひとりでも多くの方が「体を動かすのは楽しい」と感じて充実した日々になるような目標を目指した。

メニューの中では、特に個別リハビリの参加が増えている。ひとりで複数のメニューをこなしておられるので、それぞれの方が満足感を得られるよう配慮し、日々の生活場면을イメージしながらリハビリメニューが生かせるように実施した。

1. 体操

- ・ 朝のうちに少しずつ体を動かすことに慣れてこられたと思う。
- ・ 参加できる方には個別に声をかけている。
- ・ 十分に体が動かせる間隔を整え、車椅子のフットレストから足をおろし、運動がよくなるようにした。
- ・ 一緒に歌うことにも力をいれており、その季節に合った歌を皆さんからリクエストしてもらったり、かけ声をかける役割も、多くの方にかわるがわる担っていただくようにしたら、普段声が小さい方もしっかり声が出ることがわかった。

2. 個別リハビリ

- ・ 安全にリハビリメニューが実施できることを第一に心がけた。
- ・ 特に気をつけたことは、その日の体調の変化を把握しておき、顔色、表情などみるよう

にした。

- ・メニュー終了後にマッサージを希望される方が増えていて、労いの言葉をかけつつ実施している。

3. グループワーク

- ・ストレッチ体操はしっかり行い、次は脳を刺激できるようなプログラムを意識して取り入れるようにした。
- ・時にはヒントを出して自分の考えを発表してもらった。
- ・「姿勢を良くする体操」は効果的に実施しているが、すでによく身についてすぐにやれる方もある。
- ・感染症防止のため、換気は十分に行い、終了時の手洗いは必ず声をかけている。

4. 居室で臥床がちな方に対して

- ・臥床時の姿勢をまず見て、緊張感をとるような支えの工夫を行った。
- ・座位になれる方は少なく、ベッドのギャッジアップも活用しながら、座位姿勢になれるまでのお手伝いをし、一緒にベッドに腰掛けたら、背中、腰は支えながら、足の運動、背中などのマッサージをしていく。
- ・マッサージは、ゆったりとした大きい動作と、軽く皮膚の上を滑らせるリンパマッサージを使い分けて行うようにした。
- ・言葉遊びはしりとりが好評で、同室の方も巻き込んで楽しむことができた。

5. 地域の利用者に対して

- ・個別のリハビリを希望される方の情報に対して迅速に対応し、実施した。
- ・グループワークは、ストレッチ体操、脳トレプログラム、お互いに競い合うゲームなど組み合わせて行った。
- ・一番心がけたのは、皆さんの希望に添ったメニューにすることである。

《 栄養給食部門 》

入居者の方に園で制限ある中でも楽しく自分らしく過ごしてもらう為に、一人一人にあった食事提供をすることにより、入居者の生活機能の維持・改善が出来、食事をおいしく、楽しく食べることで充実した生活が送れるように努めた。

1. 食事環境

- ・ 食堂や厨房の掃除を行い、利用者が気持ちよく食事が出来るように努めた。
- ・ 厨房内の大掃除は実施出来ていないが時間がある時に床磨き等を行った。
- ・ コロナ対策として始めた毎日の厨房内掃除は継続して実施している。

2. 行事食の実施

- ・ 月に 1 度の誕生会など行事に合わせた献立や入居者の要望に合わせた献立を提供した。
- ・ デザートや麺類などの選択食や利用者に選んでもらうミニフルーツバイキング、鍋料理等を実施した。
- ・ 器や盛り付にも配慮して食事を提供。入居者に「食」に対して関心・興味を持ってもらい、毎日の食生活に変化を持たせ、施設での生活の楽しみにしてもらえるように努めた。
- ・ 好みの献立は、食事形態に関係なく多職種と連携をとり、安全に食べてもらえるように提供を行った。

3. 個別対応

- ・ 多職種と連携し、毎月 1 週間残菜調査を実施して食事状況を把握し、その人に適した食事(食事形態・食事量)を提供し、食事摂取量が増えるように努めた。
- ・ 食事摂取が難しい方には栄養補助食品を提供し、無理なく栄養補給が出来るように努めた。
- ・ 個別に栄養ケアプランを作成、より適切な栄養管理が実施出来るように努めた。
- ・ 嗜好調査を実施し、個別の嗜好にあわせた対応を行った。
- ・ 療養食・食欲のない方は、食べたいものや食べることが出来るものを量の調整をして提供するなどの対応を行った。
- ・ ターミナルの方は、多職種と連携をとり、随時できる限りの対応を行った。
- ・ 食事を自分で食べてもらえるように自助具の使用(スプーンや食器など)多職種と検討を行った。
- ・ ユニットの担当職員が中心となり、積極的に入居者に係わり、職員の窓口となり、きめか細かい対応を行うように努めた。

4. 嚥下困難な方への食事の工夫

- ・ 嚥下困難な方が安全に食事を食べられるように多職種と連携して食事量の調整や食事内容の検討を行った。

5. 技術向上及び業務の効率化

- ・ 入居者に食べやすい食事を提供出来るように食材や調理方法の検討を随時行っている。

る。

- ・ 職員が効率的に業務を行えるように話し合い、調理設備の修理・購入などを行っている。
- ・ 入居者増減に対応して調整可能な食材(冷凍食品等)の使用量を調整し、食材ロスを減少出来るように努めている。
- ・ スキルアップが図れるように業者などから情報収集を行っている。

6. 感染症対応

- ・ 体調管理に努め、園内に持ち込まないように努めたが職員が数名感染した。
- ・ 複数の職員に同時に感染者が発生した時や家族内感染等で休みが長期になると勤務調整が難しいことがあったが協力して対応した。

<資料1. 行事食・選択食実施実績表>

月	日	行事食・選択食
4月	2・8日	花見ドライブ(おむすび)
	5日	花見(桜餅・桜あんなど)
	28日	誕生会
5月	1日	開園記念(折詰弁当、紅白饅頭【プリン】)
	5日	端午の節句(カレーライス・プリンアラモードなど)
	8日	母の日(赤飯・茶碗蒸しなど)
	9日	花祭り(甘茶・お菓子他)
	25日	誕生会
	26日	フルーツバイキング(メロン、スイカ、アメリカンチェリーなど)
6月	20日	父の日の行事(枝豆ご飯、焼鳥・メロンなど)
	22日	主菜選択食(エビフライ 又は とんかつ)
	24日	誕生会
7月	1日	氷とかし(かきもち)
	7日	七夕祭り(そうめん・スイカなど)
	23日	土用(うなぎ井他)
	26日	誕生会
8月	15日	お盆(おはぎ・炒り鶏など)
	18日	主食選択食(そうめん 又は そば)
	24日	縁日と地藏祭り(たい焼き・かき氷・お菓子・アメリカンドックなど)
	30日	誕生会

月	日	行事食・選択食
9月	15日	敬老会(折詰弁当、紅白饅頭、プリンなど)
	21日	十五夜(お月見饅頭など)
	23日	彼岸法要(おはぎなど)
	30日	誕生会
10月	7日	新米を食べる会(新米むすびを昼食に提供。)
	13日	秋の大運動会(おむすび・唐揚げ・卵焼き他)
	20日	フルーツバイキング(柿・梨・りんご・みかん・ぶどうなど)
	25日	誕生会
11月	14日	おでん(鍋料理)
	25日	ボーリング大会(焼きいも)
	30日	誕生会
12月	8日	湯豆腐(鍋料理)
	16日	誕生会
	22日	冬至(かぼちゃのいとし煮)
	23日	クリスマス会(ビーフシチュー・ケーキ他)
	28日	餅つき(あんピン餅)
	31日	大晦日(天ぷら・そば汁他)
1月	1日	お屠蘇の会(おせち料理・雑煮他)
	7日	七草粥
	11日	鏡開き(ぜんざい)
	27日	誕生会
	30日	おでん(鍋料理)
2月	3日	節分(巻き寿司・鰯の生姜煮他)
	14日	バレンタインデー(チョコプリン)
	15日	寒さを吹き飛ばそう会(ぜんざい)
	26日	誕生会
3月	3日	ひな祭り(ひな人形寿司・雛あられ・甘酒など)
	21日	お彼岸(おはぎ)
	23日	選択食(桜餅 又は いちごゼリー)
	29日	誕生会

<資料2. 食事形態>

入居者 69 名

令和 5 年 4 月現在

主食 ()内は昨年度

ご 飯	むすび	軟 飯	全粥	ゼリー粥	主食なし	経管栄養
13 名 (19 名)	1 名 (3 名)	21 名 (18 名)	15 名 (14 名)	7 名 (14 名)	5 名 (4 名)	1 名 (2 名)

副食 ()内は昨年度

ふつう	荒きざみ	きざみ	嚥下困難食	副食なし	経管栄養
22 名 (30 名)	11 名 (10 名)	14 名 (13 名)	10 名 (11 名)	5 名 (4 名)	1 名 (2 名)

<栄養摂取状況>

令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月の平均

カロリー	たんぱく質	脂質	Ca	Fe	VA	VB1	VB2	VC
1342Kcal	53.1g	31.0g	503mg	7.4mg	510ug	0.6mg	0.74mg	85mg

<栄養ケアマネジメント>

スクリーニング→アセスメント→ケアプラン作成・実行→評価→再スクリーニング

栄養スクリーニング (目安)

	BMI	体重減少率(1ヶ月)	アセスメント
高リスク	21.5未満	5%以上減少	2週間ごと
中リスク	21.5未満	3～5%以上減少	1ヶ月ごと
低リスク	21.5～24.9	3%以上減少	3ヶ月ごと

令和 5 年 4 月現在の栄養スクリーニング評価結果

()内は昨年度

(入院 6 名を除く)

高リスク者 11 名 (9 名)
 中リスク者 49 名 (56 名)
 低リスク者 3 名 (7 名)

特別養護老人ホーム 秋芳の里

令和4年度 事業報告

この3年間、新型コロナウイルス感染症の対応に追われ、コロナ前とは異なり利用者の安全をさらに強化し、QOLの向上になかなか力を入れる事が出来なかった。

日頃より、水際対策に力を入れ、利用の事前体調確認や面会の制限、職員においても各人が活動の自粛や検査キットを保有し必要に応じて使用するなど、感染の持ち込みを防ぐよう努めた。

しかし、令和5年1月には全国的にコロナ第8波の真只中で、さらに施設内で感染陽性者の療養支援もあり集団感染となった。感染終息は約3週間かかったものの、幸い重篤者や死亡者を防ぐ事が出来た。

こういった状況下であったものの、今できる事をするという信念を持ち以下の取り組みを行った。

・・・ 重点項目 ・・・

1. 利用者の生活について

- ・ 感染予防から、外部の方とは非接触とし春の稲川付近の散歩や、四季に応じたドライブの実施など利用者が孤立感や引きこもりにならないよう努めた。施設内行事においても、活動中の飲食は控え、月毎の行事を実施する事が出来た。
- ・ 入居者の日常生活については、感染症に関連し隔離や行動制限あり全体的に低下している現状。再度、今までの生活が送れるよう支援に努める。

2. 感染対策について

- ・ 令和4年8月にショート利用者にコロナ陽性者あるも、施設内での感染を防ぐ事できた。しかし、令和5年1月に、入居者・職員とも感染し集団感染となった。今までに、施設内でのシミュレーションやゾーニングなど取り組みをするものの、実際に対応すると準備不足や職員の感染により混乱した状況があった。今回の様々な対応の反省を生かし、今後は冷静で混乱の無い対応に努めていきたい。

3. 職員のスキルアップ

- ・ 職員が集まって集団で研修する事や、外部に研修派遣する事が難しく、書面の回覧やWEBを使用した研修が主となった。介護技術指導には、全国の感染状況をみながら短時間で実施した。

4. ストレス対策

- ・ コロナ禍で、特有なストレスを個々に抱えるなか施設内でコロナ陽性者発生により、感染への不安や感染によるマンパワー不足、入居者の ADL や認知力の低下といった要因が重なり、ストレス対策は重要な課題となっている。
- ・ 全職員の面談は出来なかったが、必要に応じて個別に面談し、貴重な意見を聴くことができた。

5. 介護報酬(レセプト請求)について

- ・ 令和 3 年度と比較し、全体的にマイナスの報酬であった。
- ・ 主たる要因は、入院者数の増加と入院日数の増加である。特に入院日数は、令和 3 年度と比べ延べ 200 日増えていた。もう一つの要因は、欠員後の調整がコロナ感染によって難しくなり、すぐの入居が出来ない事であった。その理由は、入居候補者の施設で感染が発生したり、自施設での感染あった為である。

<介護報酬に関する資料>

表1. 介護報酬(月次レセプト請求額の集計)の状況

		R2 年度	R3 年度	R4 年度
人数		9,866	10,233	9,818
介護報酬	基本報酬の部分	78,364,060	84,690,670	81,987,190
	体制加算の部分	12,529,820	12,995,910	12,517,510
	実績加算の部分	440,160	220,620	317,400
	処遇改善加算の部分	10,047,040	10,816,840	11,300,780
	合計	101,381,080	108,724,040	106,122,880

《 生活相談部門 》

コロナ禍の生活も三年目を迎え、感染対策を行いながら日々の生活の中で楽しみを見つけ、季節感が味わえるように取り組みを行ってきた。その中で、ショートステイ内でのコロナ陽性者また、一月には職員・入居者共に感染することとなり、不自由な生活を与儀なくされた。幸いに落ち着き、徐々に元の生活に戻ることができた。

1. 利用者・家族との関わりについて(ケアマネジメントも含めて)

- ・ 利用者に積極的に声かけをし、距離を縮めていくことで、ユニット内外でも相談を受けられるような関係づくりに努めてきた。
- ・ コロナ禍であり、家族と顔が見えないこともあるが、家族の心情を考慮しつつ細目に正確に情報を伝え、思いをくみ取るように努めた。その思いを反映させ、ニーズを生かしたケアプラン作成・実施ができるように多職種で協力してきた。
- ・ 看取り期については、多職種を交えたカンファレンスを実施し、感染対策を行いながら面会を実施したことで、入居者・家族の思いに添うことができた。

2. 地域やボランティアとの関わりについて

- ・ ボランティアの受け入れはほぼできなかったが、感染対策を行いながらしめ飾りやそば打ちなど季節を感じられる行事を一緒に行うことができた。
- ・ やまびことして、地域の行事に参加し関係づくりを継続していくことで、今後も地域に根差した施設としての役割を担っていきたい。

3. 入退所について

- ・ 入居に合わせて早めに声かけを行ってきたが、前施設内でのクラスター、入居予定者の体調不良、家族の心情・事情等により、スムーズな入居につながらないことが多々あった。できる限りスムーズな入居に移行できるよう、今後も努めていきたい。

4. 実習・研修について

- ・ 実習について、相談援助実習ⅠⅡ両方の受け入れを行ったが、関係づくりや細やかな指導が行き届いていないことがあった。自己覚知をしながら、変化しつつある学習内容を学びながら、適切な指導ができるように努めていきたい。

<資料1. 入所者の状況 (R4.3.31 現在) 定員 29 名>

1. 介護度別

① 全体

介護度	男	女	計
要介護 1	0	0	0
要介護 2	1	5	6
要介護 3	2	8	10
要介護 4	0	5	5
要介護 5	1	7	8
合計	4	25	29

平均介護度 = 3.50

(H30 年度 = 3.21)

(R1 年度 = 3.17)

(R2 年度 = 3.17)

(R3 年度 = 3.50)

② ユニット別

花尾ユニット

介護度	男	女	計
要介護 1	0	0	0
要介護 2	1	0	1
要介護 3	1	6	7
要介護 4	0	2	2
要介護 5	0	0	0
合計	2	8	10

平均介護度 3.1

桂木ユニット

介護度	男	女	計
要介護 1	0	0	0
要介護 2	0	3	3
要介護 3	1	1	2
要介護 4	0	1	1
要介護 5	0	4	4
合計	1	9	10

平均介護度 3.6

治郎丸ユニット

介護度	男	女	計
要介護 1	0	0	0
要介護 2	1	1	2
要介護 3	0	1	1
要介護 4	0	2	2
要介護 5	1	3	4
合計	2	7	9

平均介護度 3.9

2. 年齢別

① 全体

年齢	男	女	計
60～69歳	0	0	0
70～74歳	0	0	0
75～79歳	0	0	0
80～89歳	1	8	9
90～99歳	4	15	19
100歳以上	0	1	1
合計	5	24	29

平均年齢 …… 91.9 歳
 (H30 年度 … 88.9 歳)
 (R1年度 … 89.3 歳)
 (R2年度 … 90.0 歳)
 (R3 年度 … 91.4 歳)

- ◎ 男性平均年齢 … 92.4 歳
- ◎ 女性平均年齢 … 91.8 歳
- ◎ 75 歳未満 … 0 名
- ◎ 90 歳以上 … 20 名
- ◎ 最年長 … 100 歳

3. 入・退所者の状況

i. 入所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年
男	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0	5	2
計	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	4

- ・在宅より 1 名、施設や病院より 5 名、計 6 名の入所があった。
- ・入所理由は、経済面、再入所によるご家族の強い希望、自宅での介護が困難、また主治医からの勧めという理由。
- ・入所待機期間は、7 年 8 ヶ月～1 ヶ月であった。

(入所者順位)

- ・4月の入所者は、58人中6番目。
- ・9月の入所者は、53人中9番目。
- ・10月の入所者は、53人中32番目。(特例入所)
- ・1月の入所者の一人目は、53人中12番目。
- ・1月の入所者の二人目は、53人中1番目。(再入所)
- ・2月の入所者ののは、53人中8番目。

ii.退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
女	1	0	0	0	0	2	0	0	2	1	0	0	6	1
計	1	0	0	0	0	2	0	0	2	1	0	0	6	3

- ・退所理由・・・長期入院4名、死亡2名(うち、園での看取り2名)
- ・在籍期間・・・10ヶ月～10年7ヶ月

4. 入居待ち状況

	待機者		内訳			
	要介護 3～5	要介護 1～2	在宅		病院・施設 他	
			要介護 3～5	要介護 1～2	要介護 3～5	要介護 1～2
秋芳町	25	12	9	9	16	3
美東町	6	2	2	2	4	0
他の美祢市	6	0	1	0	5	0
合計	37	14	12	11	25	3

- ・秋芳の里と青景園の両方の希望者は、29名(うち要介護3～5の方は19名)
- ・秋芳の里のみの希望者は22名(うち要介護3～5の方は18名)

《 看護部門 》

1 健康管理について

- ・ 年間入院者実人数は、11 名と昨年度と変わらなかった。しかし、同じ入居者が同じ疾患で入退院を繰り返す状況が多くみられた。入院理由として、肺炎が多く室温調整、衣類・寝具調整や、誤嚥予防などに努めた。また、退院に係る延べ日数 200 日も増加した。
- ・ 感染予防対策において、今まで感染を防いでいたコロナ感染が 1 月の職員の発症から入居者に感染が拡大し、入居者 9 名、職員 13 名の感染となった。日頃から、緊急に備えシミュレーション等実施していたが、実際に関わり対応の困難さや混乱が生じ、また職員の半数が罹患したため業務の継続に支障をきたした。
- ・ 初めての体験でコロナウィルスの感染力や感染拡大の速さが対応の遅れの原因と推測する。「感染を持ち込まない」が原則であるも、完全に防ぐ事が難しいと痛感した。幸いにも、入居者の体力等もあり重症者もなく、回復する事ができ日頃の栄養と水分補給の重要性を改めて感じた。
- ・ 今後、コロナが 5 類扱いになるがウィルスが無くなるわけではない為、今回の経験を活かし根拠のある感染防止や感染者対応に努めていきたい。

2 リハビリの充実

- ・ 毎日、午前中実施しているリハビリ体操は定着している。しかし、午後からのレクリエーションが他の業務等で定期的な実施が出来ておらず今後の課題である。
- ・ 天気の良い日には、季節の移ろいなど感じてもらうように散歩を心がけ支援した。入居者の生活にメリハリを付けられる様に今後、ボランティアとの協働や小グループのレクリエーションなど考えていきたい。

3 看取りケアについて

- ・ 施設で看取りに関わらせて頂いた方は、上半期に 1 名のみであった。上半期の報告でもあったが、医療の支援としては、介護職と連携し食事も少しずつ減少し呼吸も悪化見られなかったこともあり酸素は使用せず、点滴も 1 回使用したのみであった。意識が確認できない状況であっても、室内のしつらえや BGM など工夫しながら最期を迎えて頂き、最期に職員や他の入居者に見送られお別れが出来、良かった。

《令和4年度受診状況》

令和4年4月1日～令和5年3月31日(延べ人数)

受診病院	受診科・受診者数
美東病院	内科:121名 整形:9名 外科:15名 婦人科:3名 皮膚科:1名 循環器:3名 眼科:1名 ※1月に限り処方箋のみ:4名
山口日本赤十字病院	眼科:1名 ※1月に限り処方箋のみ:1名
竹尾クリニック	50名 ※1月に限り処方箋のみ:1名
さかい内科クリニック	3名
田代台病院	28名
美祢市立病院	内科:1名

《配置医》

時澤医院

《往診状況》 (延べ人数)

さかい内科クリニック 31名
秋芳歯科 19名

《入院》 (延べ人数)

美東病院 9名
田代台病院 1名

《 栄養給食部門 》

楽しみのひとつである食事。入居者一人一人の生活習慣や好みを尊重し、家庭的な雰囲気の中で、食事を美味しく楽しく食べられ、より充実した生活が送れるように努めた。

1. 食事環境について

- ・ 朝起きたら、ご飯が炊ける匂い、味噌汁のできる匂いがする、そんな日常の風景を大事にし、家と同じ食事空間をユニット職員と協力して作った。
- ・ 入居者の出来る活動を見つけ、毎食のプログラムとして、家事活動(食器洗い、台拭き、箸配り等)の提供をした。
- ・ コロナ禍で外食等は出来なかったが、お膳の中で四季を感じられる食事にしてきた。日々の食事でも季節を感じるメニュー(花見週間、七夕週間、紅葉週間)にして、まずは目で見て、花見、紅葉狩りなど楽しんでもらい、次に口から食べて季節を感じてもらった。

2. 個別対応について

- ・ 入居者一人一人の生活習慣や好みを尊重した(食事時間、食事場所、食器、好みの温度や量、食事形態、食事内容など)。
- ・ 体調、口の中の状態把握をし、その人にあった食事形態を多職種で検討し、食事を安全においしく食べられるようにしてきた。嚥下困難な方には、危険のない食事内容にして提供した(毎食の中に栄養補助食品も取り入れて、安全に口から食べることを楽しんでもらった)。
- ・ 特に食欲のない方へは、早めに多職種と連携をとり、体調をみながら、本人の食べたい物を提供した。食べる環境をかえたり、盛り付ける食器をかえたり、料理の見え目も変化させ、食欲増進へとつなげた。

3. ユニット調理について

- ・ 自分達が育てた野菜や、旬の野菜など使って、コロナ禍でもできることを楽しんだ。(例:梅酒、梅干し、いぎの葉団子、おはぎ、お月見団子、味噌作りなど)。
- ・ コロナ禍でなかなかユニット調理はできなかったが、調理職員も積極的にユニットに入るようになってきた。入居者と話すことによって、入居者(食べる側)の気持ちが分かり、より一人一人にあった食事作りができるようになってきた。

4. 業務の効率化について

- ・ 問題が発生したらそのままにせず、みんなが意見を出し合い、その都度解決するようにしてきた。
- ・ 毎日、元気な挨拶から始まり、何でも話せる雰囲気作りをしてきた。職員間の情報交換

をしっかりと、仕事のしやすい環境にした。

《食事形態》入居者 29 名

2023 年 5 月現在

ユニット	人数	主食			副食		
		ご飯	全粥	ゼリー粥	普通	刻み	嚥下困難
花尾	10	9	1		6	4	
桂木	7	3	1	3	2 (糖尿 1)	2	3
次郎丸	9	3	3	3	4 (減塩 1)	1	4
合計	26	15	5	6	12	7	7

《栄養摂取量》

エネルギー	蛋白質	脂質	Ca	Fe	レチノール当量	VB1	VB2	VC
1387 kcal	58.7 mg	29.8 mg	560 mg	8.2 mg	619 ug	0.71 mg	0.81 mg	81 mg

《行事食》

月日	内容
4 月	1～3 日 桜を感じるメニュー(昼食のみ) 入居者の方に食事の中から桜を探してもらいました。 (桜寿司、桜の葉つみれ汁、桜ようかん、桜蒸し、桜ゼリーなど)
	1 日 4 月の季節メニュー(鯛の桜蒸し、苺の淡雪)
	2 日 4 月の季節メニュー(桜ようかん)
	8 日 花祭り
	8 日 4 月の季節メニュー(ふきご飯)
	12 日 4 月の季節メニュー(春キャベツのロールキャベツ)
	22 日 4 月の季節メニュー(岩国寿司風)
5 月	5 日 端午の節句メニュー(山菜おこわ、鯉のぼりバーグ、柏餅など)
	7 日 5 月の季節メニュー(たけのご飯)

月日		内容
5月	8日	母の日メニュー(豆ご飯、刺身、シュークリームなど)
	9日	5月の季節メニュー(季節の天ぷら)
	20日	5月の季節メニュー(若草揚げ、梅酒寒天)
	24日	5月の季節メニュー(山菜寿司)
6月	1日～	秋芳の里の畑の野菜を毎食の料理に使用(パセリ,など)
	1日	6月の季節メニュー(鯛めし、ずんだ和え、紫陽花寒天)
	15日	いぎの葉団子作り
	18日	新メニュー(タンドリーポーク)
	19日	父の日メニュー(刺身など)
	20日	6月の季節メニュー(枝豆ご飯)
7月	1日～	秋芳の里の畑の野菜を毎食の料理に使用(パセリ,玉葱,トマトなど)
	1日	氷とかし
	1～7日	七夕週間、お星様メニュー(昼食のみ) 入居者の方に食事の中からお星様を探してもらいました。 (七夕寒天、きらきら寒天、七夕寿司、七夕ハンバーグなど)
	7日	七夕メニュー(七夕寿司、七夕ハンバーグ、七夕フルーツポンチなど) 入居者の方に寒天の型抜きをしてもらいました。
	15日	7月の季節メニュー(ひまわり寒天)
	16日	7月の季節メニュー(冷しゃぶ)
	23日	土用の丑の日メニュー(うなぎ寿司など)
	25日	7月季節メニュー(とうもろこしご飯)
8月	1日	開園記念日メニュー(赤飯、紅白寒天など) 喫茶(ケーキバイキング)
	12日	お盆 おはぎ作り
	14日	8月の季節メニュー(冷やしそうめん)
	15日	お盆の季節メニュー(精進寿司)
	24日	地藏祭り(赤飯、炊き合わせなど)
	29日	8月の季節メニュー(スタミナ野菜炒め)
	30日	納涼祭(ミニカステラ、かき氷、すいか割り)
9月	2日	9月の季節メニュー(山路焼き)
	8日	9月の季節メニュー(秋芳梨寒天)
	10日	十五夜 お月見団子作り
	16日	敬老の日行事(折詰弁当、紅白饅頭など)
	19日	敬老の日お祝いメニュー(ちらし寿司、紅白なます、紅白寒天など)
	23日	9月の季節メニュー(栗ご飯、鮭の塩焼き、柿なます、おはぎ)

月日		内容
9月	23日	お彼岸 おはぎ作り
	25日	中華メニュー(ラーメン、餃子など)
10月	6日	新米を食べる会(新米むすび、さば塩焼き、やきなす、豚汁など)
	17日	10月の季節メニュー(鮭の山路焼き)
	29日	10月の季節メニュー(ふろふき大根、きのこ汁、煮りんご)
	25～ 31日	ハロウィン週間(お菓子釣りゲーム)
	31日	10月の季節メニュー(けんちょう、柿寒天)
11月	1日～	秋芳の里の畑の野菜を毎食の料理に使用(さつまいも、葱など)
	4日	11月の季節メニュー(魚の幽庵焼き、はす団子あんかけなど)
	9日	11月の季節メニュー(きのこの炊き込みご飯、梨のコンポートなど)
	14～19 日	紅葉週間、紅葉狩りメニュー(昼食のみ) 入居者の方に食事の中から紅葉を探してもらいました。 (紅葉の形の人参、紅葉麩、紅葉型のつくね、もみじ寒天など)
	30日	焼き芋大会
		11月の季節メニュー(柿なますなど)
12月	11日	手打ちそば
	12日	12月の季節メニュー(鮭のホイル焼き、かぶなます、こいも汁など)
	13日	忘年会(手作りプリンアラモード)
	22日	冬至の食事(かぼちゃ含め煮、柚子ご飯など)
	24日	クリスマスメニュー(鶏肉のから揚げ、サンタ万頭など)
	25日	クリスマス会(苺のショートケーキ)
	27日	餅つき(あんぴん餅)
	31日	年越しそば
1月	1日	おせち料理(お皿はめ込み式の重箱に詰める) お茶会(和菓子)
	7日	七草がゆ
	11日	鏡開き(餅入りぜんざい)
	17日	1月の季節メニュー(かぶら蒸しなど)
	19日	1月の季節メニュー(寄せ鍋)
	24日	1月の季節メニュー(鮭のちゃんちゃん焼き)
2月	1日～	秋芳の里の畑の野菜を毎食の料理に使用(ブロッコリー、カリフラワー、春菊など)
	3日	節分行事食(各ユニットでまき寿司作り)
	5日	2月の季節メニュー(鶏雑炊)

月日		内容
2月	14日	バレンタインデーデザート(チョコ寒天)
	19日	郷土メニュー(かわらそば)
3月	3日	ひなまつり行事食(ひな寿司、花型豆腐バーグ、ひなあられなど)
	5日	中華メニュー(チャーハン、ぎょうざなど)
	14日	ホワイトデーデザート(ハート寒天入りフルーツポンチ)
	22日	お彼岸おはぎ作り
	27日	桜を感じるメニュー
	～	桜週間、花見メニュー(昼食のみ)
	4月1日	入居者の方に食事の中から桜を探してもらいました。
	日	(桜の形の人参、桜麩、桜蒸し、桜餅、桜ようかんなど)

★ 桂木農園(秋芳の里の畑)に発注した食材

玉葱、パセリ、さつまいも、葱、春菊、カリフラワー、ブロッコリー、ミニトマトなど

美祢東地域包括支援センター(委託事業)

令和4年度 事業報告

加速する人口減少や気候変動による災害、過疎化に伴う社会資源の減少により地域の高齢者が抱える生活課題は複雑・多様化している。また新型コロナウイルス感染症が長期化する中で、高齢者の虚弱化や社会的孤立に起因する認知機能の低下等様々な課題が生じている。

誰もが住み慣れた地域で心身の健康を保持し、自分らしく尊厳ある生活を継続することができるように各関係機関との連携、協働により包括的に支援を行う体制づくりに努めた。

・・・ 重点項目 ・・・

1. 住民主体の介護予防活動の活性化を図る

運動機能の向上をはかるための介護予防教室の開催後に、秋吉地区において介護予防中心のサロンの開設を支援した。また、美東病院や田代台病院のリハビリの専門職の協力を得て、後期高齢者でも楽しく手軽に運動ができるためのオリジナル体操を作成し、地域で広く活用できるように CD や DVD 作成に取り組んだ。体操を紹介した地域では活動の中でオリジナル体操をとりいれて行きたいという声や病院等でも紹介をいただく等の協力を得ることができた。

2. 地域課題を共有し、支え合う仕組みづくりに取り組む

共和地区において集中豪雨や台風等の災害非難の方法や支援等に関し、地域や各関係機関と連携し地区ケア会議を開催した。また、本人、民生委員、ケアマネ等災害避難の方法等を検討する場を設け個別避難計画(モデル)の作成に取り組んだ。本人や地域の環境等を踏まえて具体的な避難方法を確認することができる個別避難計画の必要性を感じた。訪問介護や通所介護、居宅介護支援等の介護サービスの廃止、撤退が続いたことで、緊急で地区ケア会議を開催し医療、介護、地域、行政等それぞれの立場から在宅生活を支援していくための協議を行った。官民協同で課題に取り組んでいくことの重要性を共通認識した。

<資料>

1. 基本業務

・総合相談 (延べ件数)	1393 件
〃 (実人数)	381 人
・配食サービス利用アセスメント会議	11 件
・介護予防プラン 作成件数 (要支援1・2 事業対象者)	1979 件
〃 委託件数	588 件

2. 包括的・継続的ケアマネジメント支援

・ケアマネ支援会議(秋芳・美東合同)	10 回
・地域ケア会議 (困難事例、自立支援、地域課題)	13 回
〃 (参加人数)	210 人

3. 介護予防普及啓発

・一般介護予防 (きらめきシニア教室・きらめきシニアウォーク)	20 回
〃 (参加人数)	381 人
・介護予防自主グループ・サロン活動支援	15 回
〃 (参加人数)	72 人

4. 認知症対策

・認知症初期集中支援チーム会議	12 回
・おしゃべりカフェ開催	6 回
・認知症当事者活動支援(ハッピー倶楽部、あさがお)	13 回

5. ネットワークづくり等

・みにケアネット(医療介護連携)	3 回
・民生委員会ミニ研修(秋芳・美東)	22 回
・地域密着型サービス運営推進会議(施設3カ所、デイ3カ所)	18 回
・災害支援台帳、1人暮らし実態調査台帳の更新(秋芳・美東)	497 人

在宅介護支援センター青景園

令和4年度 事業報告

生活のしづらさを抱えた高齢者の課題が多様化している中「本人の心身・家族の状況・経済力・住環境等」踏まえ、住み慣れた地域において生活が継続できるように地域・医療・福祉・行政等と連携を図り支援に努めてきた。また、コロナ禍も3年が経過し、感染を感じることが多い一年だった。

デイ・ショートの実業所の休業やデイ・ヘルパー実業所の撤退等が下半期はあり、利用者家族のみならずケアマネも調整に当たり戸惑いや不安が強かった。急な代替えサービス調整においては混乱もあったが利用者・家族・サービス実業所の理解や協力もあり何とか調整することが出来た。

業務継続計画についてはR6年までに作成できるように進めている。

・・・ 重点項目 ・・・

1. 多職種連携の強化

- ・ 多岐にわたる課題を抱えた困難ケースが増えており、ケアマネだけでは対応が難しく、医療・社協・行政・包括支援センター等多職種との会議等行い、解決に向けてすすむことが出来ている。
- ・ 終末期を自宅で過ごされる利用者も増えており、残された時間を本人・家族にとって有意義に過ごして頂けるように医療を中心とした連携で支援に努めた。

2. ケアマネジメントの質の向上

- ・ 本人と家族の意向の温度差をどのように受け止めて支援するのか、双方の持つ力や関係性を客観的に分析しすり合わせながら支援に努めた。また、その方の性格・特性(疾患からなるものもある)を理解する上では、アセスメントを繰り返す事の大切さを学ぶことができた。
- ・ スキルアップについては運営基準上の必須研修をスキルに合わせて研修内容を一緒に考え、提案し、オンライン等で受講した。
- ・ 今年度は主任ケアマネ更新研修は2名が受講した。

3. 業務継続計画の作成(BCP 計画)

- ・ 下半期は感染症発生により実業所の休業や実業所の撤廃も相次いであり、BCP 計画書の必要性を改めて理解することが出来た。また、平時より個別に代替えや感染症による入院時の対応等事前に意向を確認し共有しておくことでサービスを中断することなく、継続に繋がると実感した。

<居宅サービス計画実績>

		()は R3 年度
・計画件数	1608 件	(1688 件)
・月平均	134 件	(140 件)
・ケアマネ担当平均件数	27.3 件	(28.1 件)

<介護予防支援計画実績(美祢東地域包括からの委託)>

		()は R3 年度
・計画件数	375 件	(448 件)
・月平均	31 件	(37 件)
・ケアマネ担当平均件数	7.4 件	(7.4 件)

<介護報酬>

			()は R3 年度
*特定事業所加算 (Ⅱ)(全員)	400 単位	1608 件	(1688 件)
*初回加算	300 単位	23 件	(42 件)
*入院時加算 (Ⅰ)	200 単位	29 件	(22 件)
	(Ⅱ)	100 単位	4 件 (5 件)
退院時 (情報収集 1 回)	450 単位 ・600 単位	7 件	(7 件)
	(情報収集 2 回)	600 単位* ・750 単位	0 件 (1 件)
	(情報収集 3 回)	900 単位	0 件 (0 件)

※退院時加算については、算定要件が複雑なために、[太字*]での算定になっている。

<契約件数>

		()は R3 年度
・新規	27 件	(31 件)
・終了	34 件	(34 件)

青景園デイサービスセンター

令和4年度 事業報告

1. 個別ケアの充実

- ・ 小規模ゆえの一人ひとりにゆっくりと関わる時間を意図的に持ち、利用者の思いを知り、一日を穏やかに過ごせるように、また「楽しかった。また利用したい。」と思っただけよう職員が意識して関わった。
- ・ 利用者一人ひとりの好みや能力に合わせた脳トレや作業療法の内容を充実させて楽しく行えるよう工夫した。しかし、男性利用者や意思疎通が難しい利用者に対してのアプローチ・工夫が今後の課題。
- ・ 職員間で情報を共有し、統一したケアができるよう努めた。
- ・ 認知症の方への対応として「ゆとりを持って笑顔で関わる」ことを職員一人ひとりが意識し、状況に応じて一対一で関わり、集団の中でも孤立しないように細やかな配慮をしながら和やかな雰囲気の中で安心して利用できるよう努めた。

2. 機能訓練について

- ・ マスク着用のリハビリ実施の中でも楽しんで頂けるように外庭散歩や外でのレクリエーション等、屋外での活動を増やし、前年度同様野菜作りが楽しみの一つとなるよう取り組んだ。特に今年度は外出支援で買い物ツアーを計画し、2回実施。高齢の為自分での買い物は何年か振りという利用者がほとんどで、買いたいものを選びお金を払う行為は楽しさと脳トレ、意欲向上につながり、生き生きとした表情が印象的だった。
- ・ 体力測定3回実施。体重の増減や体力の変化などがあった利用者には、ケアマネや家族に伝え、早めの対応につなげた。自宅で転倒される利用者数名おられ、今後も下肢筋力アップメニューを工夫して転倒予防に努めていく。
- ・ 季節に合った作品づくりを通して他者との交流をしながら活性化を図る。各々出来ることを提供し、地域のふれあい祭りに出展し、達成感につなげることが出来た。

3. 職員の資質向上

- ・ 職員の研修システムわかくさに目標を掲げ、各自が今何をすべきか考えながら、一つ一つの行動に自覚と責任を持って取り組んだ。また職員同士、些細なことでもコミュニケーションを取り、助言し合える雰囲気づくりに努めた。

4. コロナウイルス感染症対策について

- ・ 送迎時の健康チェック、マスク着用、手指のアルコール消毒を継続して取り組んだ。他県からの来訪があった場合などはデイサービスを7～10日間休んでもらい、感染状況に合わせた対応が出来た。12月からは「感染防止対策確認票」の提出により休まなく

でも利用できるようになった。それにより利用者、家族、事業所にとっても円滑な利用に伴い、サービスの提供も滞らなかつた。

- ・今年度は3年ぶりにおやつ作りを再開し皆で作る楽しさや喜びを味わい、美味しく頂いた。園芸活動も継続して実施し、育てることや収穫の喜び、また漬物にして味わい、希望者は持ち帰って喜ばれた。

5. その他

- ・他事業所との連携を図り、情報収集や早めの準備をして、円滑なサービス提供を行うよう努めた。

<介護報酬に関する資料>

- ・利用者は、資料表1・表2より 総合事業利用者の延べ人数は昨年に比べ減少しているが、介護保険利用者の延べ人数は増加している。
- ・介護保険報酬は、表3より 令和2年度でコロナ加算は終わったが、令和3年度は時間区分の長い方の利用が増え、報酬は増加している。

表1. 総合事業(事業対象者・要介護12)の報酬(月次レセプト請求額の集計値)の状況

		R2 年度	R3 年度	R4 年度
延べ人数		628	473	493
報酬	基本報酬部分 等	2,555,860	2,128,700	2,042,500
	処遇改善費	180,340	149,700	154,990
	合計	2,736,200	2,278,400	2,197,490

表2. 介護保険報酬(月次レセプト請求額の集計値)の状況

		R2 年度	R3 年度	R4 年度
延べ人数		1,966	2,075	2,100
報酬	基本報酬部分 等	16,677,940	17,340,040	17,342,750
	加算部分	1,086,800	971,460	1,085,960
	処遇改善費	1,261,510	1,293,810	1,400,130
	合計	19,026,250	19,605,310	19,828,840

表 3. 介護保険の時間区分別基本報酬提供実績

時間区分	R2 年度	R3 年度	R4 年度
(3～4時間)	1	3	1
(4～5時間)	3	10	16
(5～6時間)	3	19	66
(6～7時間)	480	730	870
(7～8時間)	891	1,311	1,141
(8～9時間)	204	2	6
(8～9時間)延1	384		
(8～9時間)延2			
合 計	1,966	2,075	2,100

< 青景園デイサービスセンター事業実績表 >

(令和4年04月01日～令和5年03月31日)

{単位:人}

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
介護 保険 事業	R4	述べ人数	202	197	178	187	182	188	173	181	171	147	141	154	2,101
		男性	4	3	3	3	3	4	4	4	4	3	4	4	43
		女性	25	25	24	23	24	21	20	23	22	21	17	18	263
		合計	29	28	27	26	27	25	24	27	26	24	21	22	306
		開所日数	28	28	28	27	28	26	28	28	26	25	26	29	327
		一日平均	7.2	7.0	6.4	6.9	6.5	7.2	6.2	6.5	6.6	5.9	5.4	5.3	6.4
	R3	述べ人数	149	140	145	178	184	201	183	193	181	170	173	204	2,101
		一日平均	5.3	5.0	5.2	6.1	6.8	7.2	6.8	6.9	6.5	6.8	6.7	7.0	6.3
		増減	+53	+57	+33	+9	△2	△13	△10	△12	△10	△23	△32	△50	+0
	総合 事業	R4	述べ人数	44	44	56	56	43	36	45	37	35	31	35	39
男性			0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
女性			7	8	8	9	8	7	7	8	5	6	6	6	85
合計			7	8	9	10	9	7	7	8	5	6	6	6	88
開所日数			28	28	28	27	28	26	28	28	26	25	26	29	327
一日平均			1.6	1.6	2.0	2.0	1.5	1.4	1.6	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	1.5
R3		述べ人数	45	47	41	35	35	34	42	46	47	43	44	50	509
		一日平均	1.6	1.7	1.5	1.2	1.3	1.2	1.6	1.6	1.7	1.7	1.7	1.7	1.5
		増減	△1	△3	15	+21	+8	+2	+3	△9	△12	△12	△9	△11	△8
合計		R4	述べ人数	246	241	234	243	225	224	218	218	206	178	176	193
	一日平均		8.8	8.6	8.4	9.0	8.0	8.6	7.8	7.8	7.9	7.1	6.8	6.7	8.0
	R3	述べ人数	194	187	186	213	219	235	225	239	228	213	217	254	2,610
		一日平均	6.9	6.7	6.6	7.3	8.1	8.4	8.0	8.5	8.1	8.5	8.3	8.8	7.9
	増減		+52	+54	+48	+30	+6	△11	△7	△21	△22	△35	△41	△61	△8

< 介護保険利用者の介護度別一覧 >

(令和5年3月31日現在)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	介護 5	合 計
男 性	1	1	1	1	0	4
女 性	10	3	5	0	0	18
計	11	4	6	1	0	22

< 総合事業利用者の状況 >

(令和5年3月31日現在)

	要支援 I	要支援 2	事 業 対 象 者		合 計
			週1回利用	週2回利用	
男 性	0	0	0	0	0
女 性	3	1	0	2	6
計	3	1	0	2	6

秋吉デイサービスセンター

令和4年度 事業報告

地域に密着し開かれた施設として、利用者の方々が住み慣れた町で家庭的な雰囲気の中で《安心、安全、温かさ》のあるデイサービスであるよう努める。利用者の方々の支援と社会的孤立感の解消及び機能の維持、ご家族の負担の軽減を図る。定員30名ですがコロナ禍でありながら介護保険事業については上期に於いて利用者の増加になっているものの下期に於いては減少した。デイでコロナの発症があり、症状がなくてもデイの利用者にドクターストップがかかり、又デイの休業により、利用者の減少となり計画していた利用者の増加にはつながらなかった。

総合事業は介護給付事業に移行した方があり減少している。利用は週2回が限度であるが安心して在宅生活を送れるように支援してきた。

1. 利用者の個別ケア

- ・ 日常生活上の食事、排泄、入浴等、残存機能を活用しながら、個別に介護や支援に努めていき、職員の意識統一を図り、統一したケアに努め医療行為のある方についても出来る限り受け入れ在宅生活が可能になるよう支援してきた。
- ・ アンケート調査により一人一人の思いをくみ取り、それぞれの思いに添えるように配慮し努力してきたがお金がかかる要望もあり課題もある。
- ・ アクティビティ(計画に基づいた集団的に行われるレクリエーション、創作、活動などの機能訓練)をすることで楽しみながら心身の活性化を促す。作品については秋芳町のふれあい祭りに展示、掲示をすることで、ご家族の方々にも見ていただく機会を得ることができた。ご希望があれば脳トレの宿題の持ち帰りも出来るよう配慮してきた。
- ・ 機能訓練(リハビリ)では看護師体制が整ってきているので、各家庭を訪問し、家庭の環境、家族の要望などの聞き取りをして多職種で個別計画を作成する。機能訓練を行う事で機能の強化、下肢筋力の低下予防、転倒予防を図ってきた。両足を動かすエスカルゴでの下肢筋力の強化や、歩行訓練では、廊下での杖歩行やシルバーカーで自主的に訓練される姿が見られるようになった。

2. 感染症予防

- ・ インフルエンザ、ノロウイルス、特に新型コロナウイルス等の感染症については気配りをして予防対策を十分してきたがコロナが発症した。職員がしっかり話し合い今後も予防対策を続けていき安全を確保して行きたい。
- ・ マスクについては、利用者の方々をお願いして職員も今後も着用していく。

3. 職員の資質向上

- ・今年度は認知症研修、管理者研修については、リモートで研修したがほとんどの職員は外部研修に参加出来なかったので自己研鑽に努め、わかきさに目標を掲げ、目標に向かって努力してきた。
- ・職員全体で明るい職場作り、働きやすい環境作りに取り組み、チームワークを大切にしてきたが、コロナ禍で思いがぶつかることもあり、話し合いで解決してきた。
- ・ラジオ体操の励行。

4. 事故防止

- ・送迎、介護、支援においてヒヤリ・ハットを記録して、事例検討することで、同じことの繰り返しがないよう努力してきた。大きな事故なく過ごすことができた。

5. 地域、関係機関との連携

- ・関係機関と連携を図り、利用者の情報を共有し安定した在宅生活を送れるよう配慮してきた。保育園やボランティアの訪問がなく寂しかったのですが、秋吉小学校から、ドライフラワーの花束の贈呈があり、利用者の方々に大変喜ばれた。
- ・早く平常の生活に戻り利用者の方々と子供たちのふれあいの場が戻ることを願っている。

<介護報酬に関する資料>

総合事業については、更新や区分変更により、総合事業から介護保険事業に移行された方が増えており、人数・報酬が減っている。

介護保険事業では、上期において、人数・報酬が上がっていましたが、下期においては、コロナの影響で利用者の減少になり報酬が減っている。

提供時間については、午後3時40分帰りの6～7時間利用が多く、遅い時間の利用者が増えてくると報酬の増加に繋がるのではないかと思う。

表1. 総合事業(事業対象者・要介護12)の報酬(月次レセプト請求額の集計値)の状況

		R2年度	R3年度	R4年度
延べ人数		1,650	1,628	1,345
報酬	基本報酬部分 等	8,535,670	8,507,860	6,965,820
	処遇改善費	589,630	586,680	510,970
	合計	9,125,300	9,094,540	7,476,790

表 2. 介護保険報酬(月次レセプト請求額の集計値)の状況

		R2 年度	R3 年度	R4 年度
延べ人数		5,297	5,991	5,996
報 酬	基本報酬部分 等	39,299,620	42,526,430	42,319,700
	加算部分	4,170,970	4,066,160	4,245,870
	処遇改善費	2,999,280	3,213,220	3,449,730
	合計	46,469,870	49,805,810	50,015,300

表 3. 介護保険の時間区分別基本報酬提供実績

時間区分	R2 年度	R3 年度	R4 年度
(3～4時間)	9	4	10
(4～5時間)	50	86	68
(5～6時間)	11	40	29
(6～7時間)	2,274	3,665	3,853
(7～8時間)	1,437	2,188	2,011
(8～9時間)	958	5	25
(8～9時間)延1	551		
(8～9時間)延2	7		
合 計	5,297	5,988	5,996

< 秋吉デイサービスセンター事業実績表 >

(令和4年04月01日～令和5年03月31日)

{単位:人}

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
介護 保険 事業	R4	述べ人数	543	528	540	513	550	502	558	538	481	409	342	521	6,025
		男性	16	18	21	21	20	21	21	21	11	18	19	20	227
		女性	41	41	40	38	39	41	40	40	47	39	38	35	479
		合計	57	59	61	59	59	62	61	61	58	57	57	55	706
		開所日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	23	19	27	304
		一日平均	21.0	20.0	21.0	20.0	20.0	19.0	21.5	20.7	18.5	17.8	18.0	19.3	19.7
	R3	述べ人数	514	511	497	502	447	486	525	533	516	474	474	539	6,018
		一日平均	20.0	20.0	19.0	19.0	17.0	19.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	19.5
		増減	+29	+17	+43	+11	+103	+16	+33	+5	△35	△65	△132	△18	+7
	総合 事業	R4	述べ人数	174	181	167	157	149	146	168	157	153	131	112	163
男性			1	1	1	1	1	3	3	3	2	2	2	2	22
女性			30	31	29	31	26	28	27	27	27	28	28	28	340
合計			31	32	30	32	27	31	30	30	29	30	30	30	362
開所日数			26	26	26	27	26	26	26	26	26	23	19	27	304
一日平均			6.7	7.0	6.4	5.8	5.7	5.6	6.5	6.0	5.9	5.7	5.9	6.0	73.2
R3		述べ人数	211	202	210	194	181	193	190	188	180	172	162	184	2,267
		一日平均	8.0	8.0	8.0	7.0	6.0	7.0	9.0	9.0	8.0	9.0	9.0	9.0	8.1
		増減	△37	△21	△43	△37	△32	△47	△22	△31	△27	△41	△50	△21	△409
合計		R4	述べ人数	717	709	707	670	699	648	726	695	634	540	454	684
	一日平均		27.6	27.3	27.2	25.8	25.9	25.0	28.0	26.7	24.4	23.5	24.0	25.3	26.6
	R3	述べ人数	725	713	707	696	628	679	710	721	696	646	636	723	8,285
		一日平均	23.0	23.0	24.0	23.0	23.0	24.0	25.0	27.0	25.0	26.0	28.0	27.0	25.0
	増減		△8	△4	0	△26	71	△31	11	△26	△62	△106	△182	△39	△402

< 介護保険利用者の介護度別一覧 >

(令和5年3月31日現在)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	介護 5	合 計
男 性	8	8	2	2	0	20
女 性	14	14	6	1	0	35
計	22	22	8	3	0	55

< 総合事業利用者の状況 >

(令和5年3月31日現在)

	要支援 I	要支援 2	事 業 対 象 者		合 計
			週1回利用	週2回利用	
男 性	0	1	0	2	3
女 性	9	10	6	3	28
計	9	11	6	5	31

令和4年度 年間行事実施表

行 事		個 別 活 動			
		健康・運動	創作・手工芸	手作りおやつ	園芸
4月	お花見 誕生会	外庭散歩 体を使ったゲーム			花の手入れ
5月	花祭り、母の日 藤の花見、誕生会	ミニ運動会 頭脳レク	紫陽花の作品	いぎの葉団子	花植え
6月	父の日、大祓い 誕生会	風船バレー大会 頭脳レク	七夕飾り		
7月	涼を求めて、七夕行事 氷とかし、誕生会	弁天池散策		かきもち茶	
8月	地藏祭(福引き)、スイカ割り 盆踊り大会、誕生会	体を使ったゲーム			花の手入れ
9月	敬老の日行事 デイサービス祭り、誕生会	ミニ運動会 リズム体操			花植え
10月	運動会 誕生会	外庭散歩 体を使ったゲーム	ふれあい祭作品	どら焼き	
11月	紅葉狩り、カラオケ 誕生会	リズム体操 ゲーム大会	クリスマス作品	スイートポテト	花の手入れ
12月	クリスマス会、大祓い 忘年会、映画鑑賞、誕生会	ゲーム大会 反省会			
1月	初詣、正月遊び、お茶会 福引大会、誕生会	すごろくゲーム 町内神社参拝	正月作品		
2月	カラオケ 節分行事、誕生会	療育音楽 鬼払いゲーム			
3月	焼山見物 ひな祭り行事、誕生会	体を使ったゲーム	壁面製作	よもぎ団子	

☆ADL体操・口腔体操・失禁体操・転倒予防体操……毎日

☆なつかしの歌……毎月2曲を選び毎日歌う

☆機能訓練……個別に計画を作成し、個別メニューを実施

☆集団レクリエーション……プログラムを作成し実施

☆趣味・生きがい……個別に関わる。貼り絵・ぬり絵・脳のトレーニング・タオル干し・将棋手芸・買い物

特別養護老人ホーム青景園
短期入所生活介護（ショートステイ）

令和4年度 事業報告

R2年度、R3年度、そしてR4年度と、年々利用人数、介護報酬は増加しており、ショートステイが在宅で生活されている利用者や家族にとって必要なサービスになっていることがわかる。また、ロングショート希望者が増えており、長期利用により減算になるケースもあった。

今年度は1月の後半から2月の前半にかけて、コロナウイルス感染により利用制限があり、利用日数や人数の減少が見られたが、全体的には空床を最大限に活用し、増収の結果となった。

サービスの内容については個々のニーズに沿い、特にリハビリやアクティビティは工夫を凝らした楽しい内容になっており、利用者に喜ばれ、継続利用に繋がっている。

今後も感染症の予防に努めながら、施設の資源を活用して、一人でも多くのショートステイ希望者に喜ばれるサービスを提供できるよう取り組んでいきたい。

<利用実績報告(令和4年4月～令和5年3月)>

表1 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	23	34	19	21	27	19	31	41	49	40	43	72	419
女	263	229	233	246	237	259	236	218	245	243	195	242	2,846
計(人)	286	263	252	267	264	278	267	259	294	283	238	314	3,265

表2 実人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	4	5	3	3	4	3	3	5	4	5	4	6
女	25	22	18	22	22	24	24	23	22	22	19	21
計(人)	29	27	21	25	26	27	27	28	26	27	23	27

実人数 52

表3 実人数内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
要支援2	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	7	7	5	7	9	7	9	8	7	8	6	7
要介護2	7	5	3	3	6	6	5	5	8	10	5	7
要介護3	11	10	8	10	7	9	8	10	7	5	8	9
要介護4	2	3	4	3	2	4	4	4	3	3	3	3
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
短期宿泊事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表4 1人の平均利用日数 及び 1日の平均利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1人の平均利用日数(日)	9.9	9.7	12.0	8.6	10.2	9.3	9.9	8.6	11.0	10.4	8.5	11.6
1日の平均利用人数(人)	9.5	8.5	8.4	10.7	8.5	10.3	8.6	9.3	9.5	9.1	10.3	10.1

年間平均 9.4

<介護報酬(月次レセプト請求額の集計)の状況>

表5 予防介護報酬(月次レセプト請求額の集計値)の推移

		R2年度	R3年度	R4年度
人数		157	117	129
介護報酬	基本報酬の部分	733,670	532,720	601,500
	加算の部分	197,360	166,520	179,580
	処遇改善加算の部分	94,140	73,660	86,860
	合計	1,025,170	772,900	867,940

表6 介護報酬(月次レセプト請求額の集計値)の推移

		R2年度	R3年度	R4年度
人数		2,699	2,900	3,126
介護報酬	基本報酬の部分	18,331,780	20,501,000	21,811,440
	加算の部分	3,276,190	2,941,040	2,933,060
	処遇改善加算の部分	2,289,480	2,570,530	2,920,980
	合計	23,897,450	26,012,570	27,665,480

表7 表5と表6の合計

		R2年度	R3年度	R4年度
人数		2,856	3,017	3,255
介護報酬合計		24,922,620	26,785,470	28,533,420

特別養護老人ホーム 青景園サテライト 秋芳の里
短期入所生活介護（ショートステイ）

令和4年度 事業報告

1. 利用状況について

- ・ 令和4年4月に、職員体制に伴い、休業をした。
- ・ 令和4年8月に利用者からコロナ陽性者があり、再度休業をした。
- ・ 令和5年1月に特養の入居者コロナ陽性者あり、また集団感染になった為、休業をした。
- ・ 各休業期間は異なるが、大きく利用者数や利用日数に影響があった。
- ・ 実人数においても年々減少傾向となり定期利用者の入居や入院が考えられ、新規利用者も減少している。

2. 重点目標について

- ・ 個別ケアについては、その都度に情報を共有しショート担当者のみでなく、他のユニット職員と協働する。
- ・ 個別の活動についても、活動を増やす工夫をしドライブや散歩など利用中であっても外出する機会をもった。
- ・ 感染対策については、利用中の感染者あるも他の利用者に感染させる事なく対応出来た。

3. レセプト請求資料について

- ・ 令和4年4月、令和5年1月と約1ヶ月の休業の為、全体報酬として減算となった。
- ・ 近年は利用者数が減少傾向にあり。特に計画途中に、キャンセルなど安定しなかった。
- ・ 今後、ロングショート受け入れなど利用者確保に努めていく。

<利用実績報告(令和4年4月～令和5年3月)>

表1 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	21	46	50	50	41	48	64	41	27	6	30	27	451
女	61	168	153	165	200	156	185	175	214	47	176	176	1,876
計(人)	82	214	203	215	241	204	249	216	241	53	206	203	2,327

表2 実人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	5	9	8	6	5	7	9	7	5	1	5	3
女	13	20	21	19	22	22	22	21	23	9	18	19
計(人)	18	29	29	25	27	29	31	28	28	10	23	22

実人数 34

表3 実人数内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	3	2	2	2	0	1	2	1	0	0	1
要介護1	4	5	4	5	4	5	6	6	7	2	2	2
要介護2	8	14	14	11	9	11	12	9	9	2	10	8
要介護3	3	4	6	4	9	11	9	9	9	4	9	9
要介護4	3	3	3	3	2	2	32	2	2	2	2	2
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
短期宿泊事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表4 1人の平均利用日数 及び 1日の平均利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1人の平均利用日数(日)	4.6	7.4	7.0	8.6	8.9	7.0	8.0	7.7	8.6	5.3	9.0	9.2
1日の平均利用人数(人)	2.7	6.9	6.8	6.9	7.8	6.8	8.0	7.2	7.8	1.7	7.4	6.5

年間平均 6.4

<介護報酬(月次レセプト請求額の集計)の状況>

表5 予防介護報酬(月次レセプト請求額の集計値)の推移

		R2年度	R3年度	R4年度
人数		296	231	81
介護報酬	基本報酬の部分	1,869,880	1,499,190	525,690
	加算の部分	205,820	182,250	77,140
	処遇改善加算の部分	227,210	181,350	67,590
	合計	2,302,910	1,862,790	670,420

表6 介護報酬(月次レセプト請求額の集計値)の推移

		R2年度	R3年度	R4年度
人数		2,747	2,716	2,146
介護報酬	基本報酬の部分	21,591,490	21,775,500	17,082,080
	加算の部分	976,860	2,573,400	773,640
	処遇改善加算の部分	2,711,480	2,588,720	1,492,240
	合計	27,622,550	26,937,620	2,287,480

表7 - 表5と表6の合計

		R2年度	R3年度	R4年度
人数		3,043	2,947	2,227
介護報酬合計		29,925,460	28,800,410	22,305,860